dCS

Scarlatti

DAC

Stereo Digital to Analogue Converter

取扱説明書

株式会社太陽インターナショナル
〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイス 1F
Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778
<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）.....3

初めてのスカルラッティ・DAC.....4
- 梱包.....4
- 安全のための注意.....4
- AC 電圧設定.....4
- 電源ケーブル.....4
- メインコンディショナー.....4
- 設置.....5

セットアップガイド.....6
- 表示、フォントの意味.....6
- 最初に.....6
- STEP 1：デジタル入力の選択.....7
  - 1394 インターフェイスケーブルの接続.....7
  - シングル AES、SPDIF の接続.....7
  - デュアル AES ソースとの結線.....7
  - SDIF インターフェイスの接続.....7
- STEP 2：アナログ出力の結線.....8
  - プリアンプをご使用の場合.....8
  - パワーアンプにダイレクトに結線する.....8
- STEP 3：出力レベルの設定.....9
- STEP 4：Sync モードの選択.....9
  - DAC をマスターモードで使う.....9
  - マスタークロックを使用する.....10

フロントパネル.....11

リアパネル.....14

ソフトウェア—メニュー 16
メニューの使用 17
INFORMATION メニュー 18
DAC SETTINGS メニュー 19
DISPLAY SETTINGS メニュー 20
SIGNAL GENERATOR メニュー 20

メンテナンス 21
ヒューズの交換 21
ヒューズを交換する 21
保証 22
使用環境 22
ソフトウェア・アップデート 22

仕様 23

問い合わせ先 24

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。

⚠注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

［設置上のご注意］

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

［お手入れについて］

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのスカルラッティ・DAC

使用前に本項および「セットアップガイド」（P.6）をぜひお読みください。効率的にかつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

将来 dCS は必要に応じソフトウェアを更新しています。本機は CD-ROM によって、ご自身でアップデートできるように設計されております。ソフトウェアが更新されたときに、ご連絡いたしますので、保証登録は必ずなさってください。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

・スカルラッティ・DAC 本体
・マニュアル
・愛用者カード
・パワーケーブル
・IEEE 1394 ケーブル
・BNC ケーブル
・ヒューズ（スペア）

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。

本機の保証カードは愛用者カードでの登録後、お手元にお届けいたします。

プロントリモートはスカルラッティ・トランスポートに付属されております。トランスポートをお持ちでなくプロントリモートがご入用の場合には販売店を通してご注文ください。プロントリモートはオプションとなります。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

AC 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷を本機に与えかねませんし、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

メインコンディショナー

メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意下さい。

設置

スカルラッティシリーズ機器は一台ずつラックで使用するように設計されております。ユニット本体を積み重ねての使用はなさらないようにしてください。しっかりした、振動しない棚板に載せ、他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

セットアップガイド

基本的な動作のためのセットアップガイドです。

表示、フォントの意味

この取扱説明書で使用されている文字色は、下記の内容を示しています。

- 青：コントロールとコネクターについての記載
- ピンク：メニュー、またはセッティング
- グリーン：ディスプレイ表示

最初に

本項はメニュー構造詳細についてのチャートと、一般的なセットアップを説明します。

デジタルインターフェイスについては、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- AES/EBU インターフェイスには 110Ω、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- SPDF、ワードクロック、または SPDF BNC インターフェイスには 75Ω コアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。
- SPDF RCA インターフェイスには 75Ω コアキシャル RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。
- TOS リンクオプティカルインターフェイスには TOS リンク光ファイバーケーブルをご使用ください。
- IEEE1394 インターフェイスには IEEE1394 ケーブルをご使用ください。本機に付属しています。

アナログ出力については、オーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- バランス端子 (XLR) には、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- アンバランス端子 (RCA) には、コアキシャル、RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。

本機リアパネルの電源入力に付属の電源ケーブルを接続し、電源を入れる準備をします。

重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この場合の入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

Power ボタンを押すと約 30 秒間で本機はセルフチェックを行います。ディスプレイは次の順で表示されます。
Scarlatti 次に No Input

もし本機が上記の表示がさない場合には、次の手順でリセットします。

Menu ボタンを一回押し、次に→ボタンを 1 度押します。続いて Menu ボタンをもう 1 度押すと、DAC Setting メニューが表示されます。←ボタンを何度か押し、Factory Reset メニューを呼び出します。Menu ボタンを押し数秒待ちますと、本機は自動的にリセットします。

STEP 1：デジタル入力の選択

使用システムの電源を入れます。ディスクかテープを機器にセットしプレイモードにし、デジタルオーディオ信号を出力していることを確認します。
以下のどれか選択します。

1394 インターフェイスケーブルの接続

・ソース機器（dCS SACD トランスポートや dCS アップサンプラーなど）が 1394 経由 DSD データを送信すること、44.1kHz ワードクロックを送信すること、セットアップが正しく行われていることを確認します。
・ソース機器の 1394 出力と DAC の 1394 入力を接続します。同時にソース機器の Wordclock Out と DAC の Wordclock In とを接続します。
・Input ボタンを数回押し、ディスプレイ上に 1394 またはソース機器名（dCS STT 等）を呼び出します。

本機は Wait ..., No-WClk または Search.., と表示することもあります。これはユニットがセッティングを行っていることを表しています。その後次の順に表示します (Clk OK), Locking, DSD。DAC の 1394 端子にもう1台の dCS トランスポートを接続している場合は、DAC の Input ボタンによってもう一方の 1394 入力を選択してください。

シングル AES、SPDIF の接続

ほとんどの CD トランスポートや DVD プレイヤーなどのソース機器はシングルケーブル出力、通常 RCA 出力などに対応しています。
・ソース機器の出力から DAC の端子とマッチした入力に結線します。
・DAC の Input ボタンを押し、ソース機器の出力とマッチする入力を選択します。AES1, AES2, RCA1, RCA2, Toslink, BNC のどれかです。

DAC は入力ソースとロックします。ディスプレイは (44.1k), Locking, 16/44.1 の順に表示します。

デュアル AES ソースとの結線

ソース機器がデュアル AES 機能を備えていることをまずご確認ください。
・ソース機器の AES1（または AES A）出力を DAC リアパネルの AES1 入力に、AES2（または AES B）出力を AES2 入力に AES/EBU ケーブルで結線します。ケーブルが AES1(A) 出力→ AES1、AES2(B) → AES2 と正しく結線され、逆に入力していないことを確認します。
・Input ボタンを、AES1、AES2 の両方のインジケーターが点灯するまで数回押します。

DAC は入力ソースとロックします。ディスプレイは (96k), Locking, 24/192（ソースが 24 ビットデータ、192kS/s サンプルレートの場合）の順に表示します。

SDIF インターフェイスの接続

ソース機器がデュアル SDIF PCM または DSD 機能を備えていることをまずご確認ください。
・ソース機器の CH1 出力を DAC リアパネルの CH1 入力に ,CH2 出力を DAC の CH2 入力に BNC ケーブル 2 本で結線します。ソース機器のワードクロック出力 (Wordclock Out) と DAC の WClk In とを BNC ケーブルで結線します。3 本なので、ケーブルが CH1 出力→ CH1、CH2 → CH2、Wordclock Out → WClk In と正しく結線されていることを確認します。
・DAC の Input ボタンを押し、SDIF をディスプレイに呼び出します。

PCM または DSD モードは自動的に検出されます。DAC は入力ソースとロックします。ディスプレイは (44.1k), Locking, 16/44.1 の順に表示します。DSD ソースの場合、DSD と表示します。

Step2 へ進む

STEP 2：アナログ出力の結線

以下のどちらかを選択します。

プリアンプをご使用の場合

・プリアンプのボリュームコントロールを最低（0）にします。
・バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用しプリアンプの入力と結線します。
・ DAC のロータリーコントロールを時計方向に回し、Volume を最大にします。ディスプレイには − 0.0dB と表示されます。

プリアンプのボリュームをお好みのレベルに上げます。

パワーアンプにダイレクトに結線する

・ DAC のロータリーコントロールを反時計回りに廻し、ボリュームレベルを最小にします。ディスプレイには −60.0dB と表示されます。
・ バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用しパワーアンプの入力と結線し、パワーアンプをオンにします。

ディスクを演奏すれば、この段階で音楽がスピーカーから聞こえてきます。
・DAC の Volume をゆっくりと時計方向に廻してお好みのレベルに上げます。

Step3 へ進む

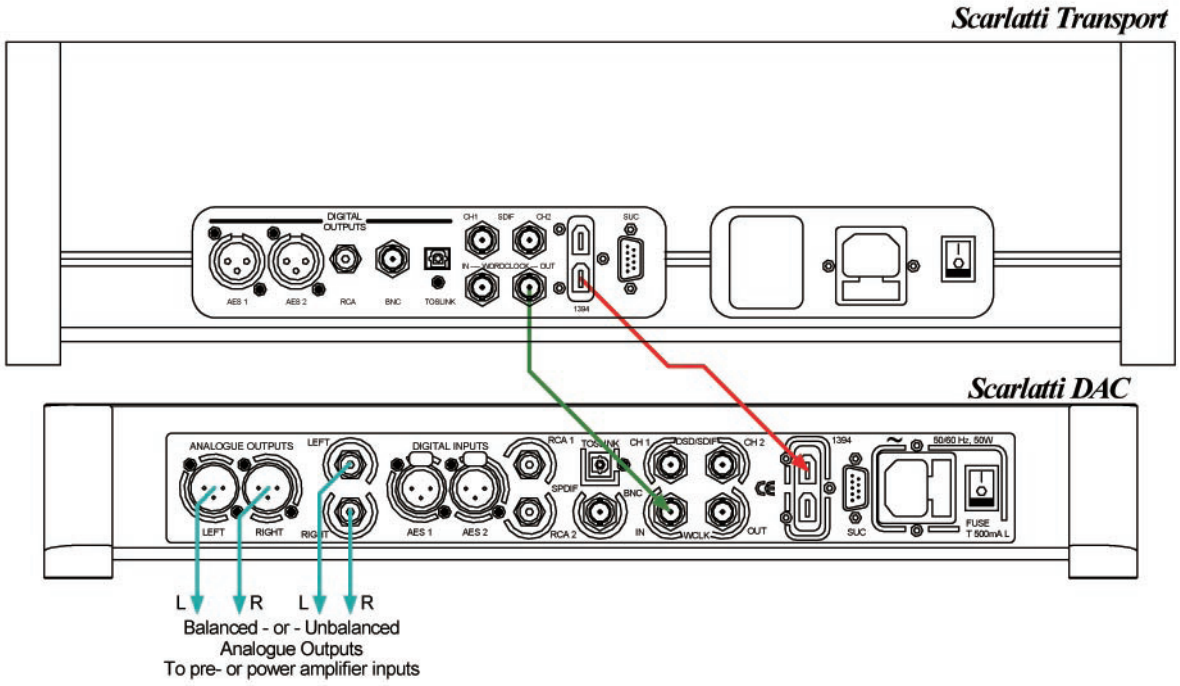


図 1：基本セットアップ

STEP 3：出力レベルの設定

プリアンプでの音量設定が適当な音量より高いかもしくは低い場合には DAC の出力レベル設定をする必要があるかもしれません。同様に、パワーアンプに直接結線してご使用の場合でも、適正音量レベルが −10.0 より高いか（−0.0 に近い）、−20.0 より低い（−60.0 に近い数値）の時は、出力レベルを切り替えます。

・ Menu ボタンを押し、→ボタンを一度押します。次にもう一度 Menu ボタンを押します。ディスプレイは DAC Setting（DAC 設定）メニューを表示します。→ボタンを数回押し、Analogue Out（アナログ出力）メニューを開きます。Menu ボタンを押して、出力設定を変更します。

もし設定出力が 2V で、音量が −20.0 以下の場合には、パッシブアッテネーターなどのご使用を考慮なさってください。

STEP 4：Sync モードの選択

この段階でシステムはソースによって創り出されるワードクロックにロックしています。1394 または SDIF インターフェイスをご使用の場合には、DAC はソース機器によって創り出されるワードクロックとロックしています。これは最も単純なセットアップですが、クロックジッターによってベストの音質が得られる状態ではありません。

DAC をマスターモードで使う

ソース機器が 44.1kS/s でサンプリングしワードクロック入力を備えている場合には、スカルラッティ DAC をマスターモードで使用し、ソース機器をスレーブモードにすることによりシステムのジッターを低減できます。
それ以外の場合はこの項は不要です。

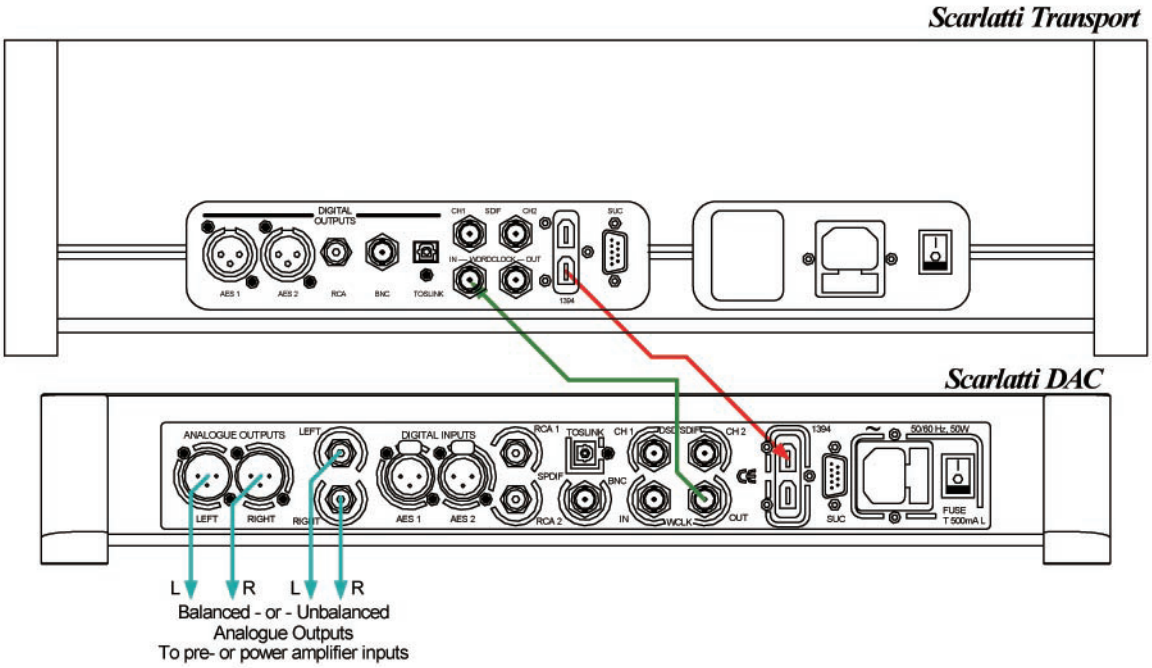


図 2：DAC マスターモードでスカルラッティ トランスポートを使用する

注意：条件として、ソース機器が 44.1k Hz ワードクロックでロックし、DAC が 44.1、88.2 または 176.4kS/s、または DSD 方式でデータを受け取ることが出来る場合のみ、DAC をマスターとして使用し同期が可能です。システムが正しく設定されずロックに失敗した場合には、クリックやノイズ等がスピーカーから聞こえてきて、音楽信号もひずんで聞こえます。

・ DAC の Word Clock Out（クロック出力）とソース機器のクロック入力とを接続します。dCS トランスポートをご使用の場合にはトランスポートは自動的にスレーブモードに入り DAC のクロックをマスタークロックとして作動し、システムは同期します。
・ Sync（シンクロ）ボタンを押し、DAC を Master モードにし、システムがロックするのを待ちます。

マスタークロックを使用する

スカルラッティ・クロックを追加することによって更にシステムの再生能力は高まります。

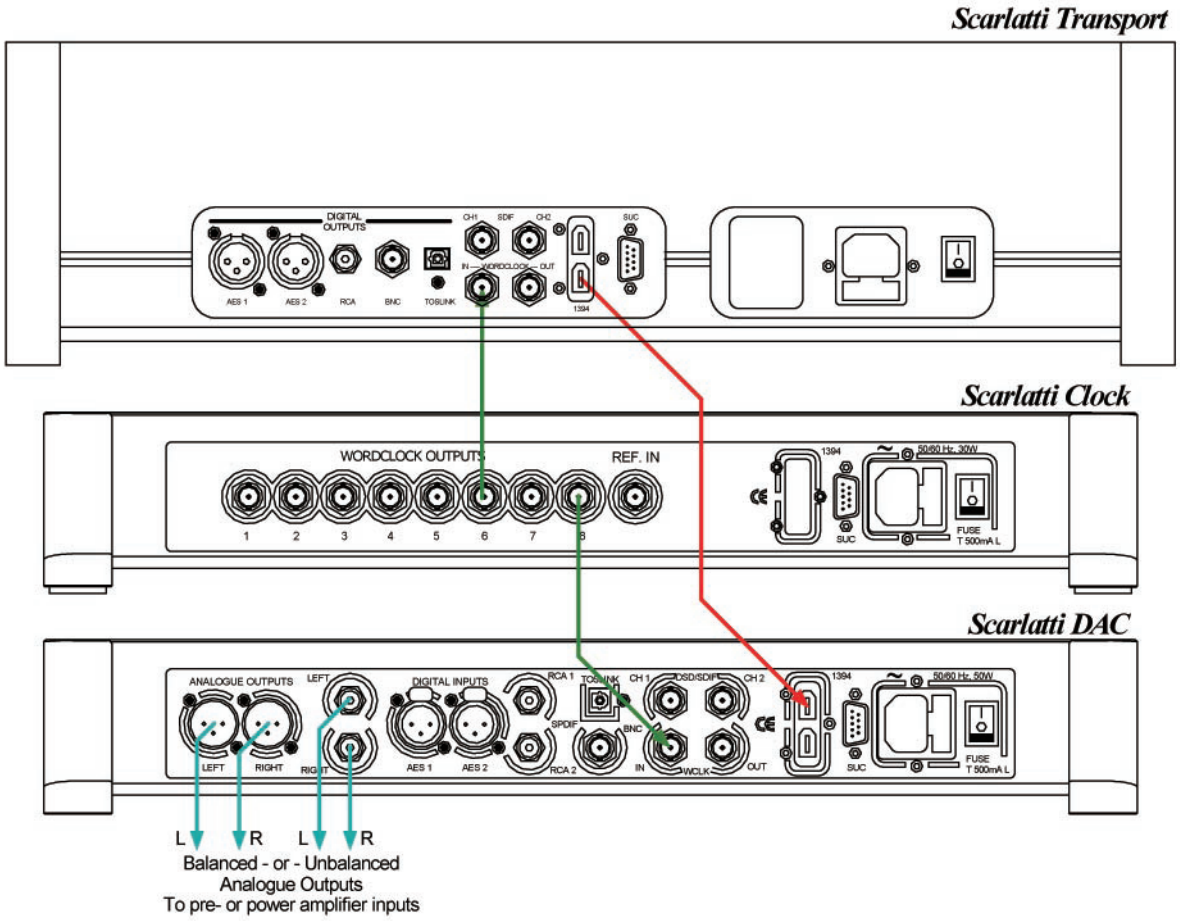


図 3：マスタークロックを使用する

・クロックの Wordclock Outputs ８系統のいずれかと、トランスポート、DAC の Wordclock Input 端子を接続します。クロックの出力端子はどれも同じです。
・クロックの Frequency（周波数）ボタンによってクロック出力周波数を 44.1kHz にセットします。
・DAC の Sync ボタンを使用して DAC を WClk モードにセットし、システムが再ロックするのを待ちます。

システムはミュートされていない状態でリロックします。

マスタークロックをご使用になる際には、クロックの取扱説明書もご覧下さい。

次のステップはたいへん大切な部分です。ゆったりくつろいで音楽を楽しんでください。

フロントパネル

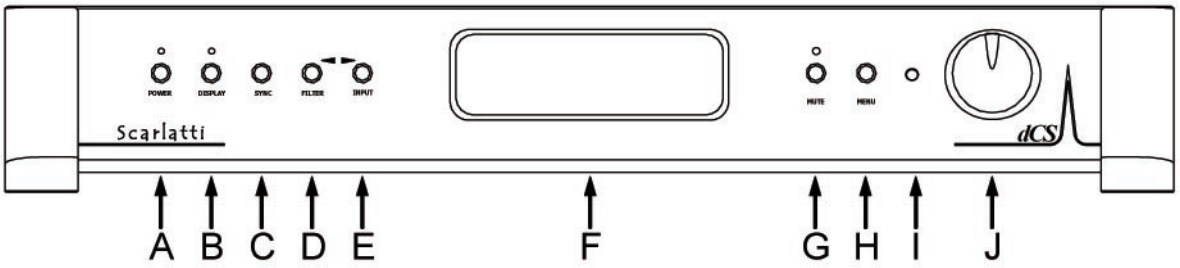


図 4：フロントパネル

(A) POWER ボタン

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを I にセットし、このボタンを押します。オンオフはリモートでは出来ません。

スリープモードにするには POWER ボタンを軽く押します。ディスプレイは消え、ボタンの上に位置する LED が点灯します。アナログ出力はミュートされ、本機は作動時に近い温度をキープします。スリープを解除するにはもう一度このボタンを押します。

スイッチオフにするには POWER ボタンをディスプレイが POWER OFF と表示するまで、約 5 秒押し続けます。

メニューが開いているときは、POWER ボタンによってメニューを閉じます。

(B) DISPLAY ボタン

ディスプレイを点けるか消すかに使用します。ディスプレイがオフの時は、DISPLAY ボタンの上の LED が点灯し、本機が稼働状態にあることを知らせます。

(C) SYNC ボタン

SYNC（シンクロ）ボタンを押すことによって、選択されている入力をシンクロモードにします。 DAC は各デジタル入力において、どのモードかを記憶されます。

オプションは以下の通りです。

Audio― 選択されたデジタル入力のクロックからクロックを取り出し、それにロックします。スカルラッティ・トランスポートを使用しない場合にお使いください。この状態ではジッターひずみは最良ではなく、従って音質もよいは言えません。

WClk― DAC は Word Clock Input（外部クロック入力）と接続された外部クロックとロックします。これはスカルラッティ・トランスポートを使用する場合や、スカルラッティシリーズ全てをご使用の場合の通常の設定です。最良の結果を求めるには、スカルラッティシリーズ全て使用し、この設定にしてください。

Master― DAC は本機に搭載された 44.1kHz という安定した内部クロックを使用し、同じクロックを出力します。ソース機器は DAC とロックできる状態になります。正しいマスタークロックの動作には、ソース機器は DAC にロックされていなければなりません。これはスカルラッティ・トランスポートをお持ちで、クロックはお持ちではない場合の推奨設定です。

(D) FILTER ボタン

お好みのフィルターを選択するボタンが FILTER（フィルター）ボタンです。
これはユーザー一人一人のお好みで決定すべきものであるので、音を聴きながら選択してください。フィルターの選択はお聴きになる音楽のジャンルによって異なるかもしれません。

PCM モードでは最初の4つのフィルターはナイキストイメージ除去と位相によって長所、短所があります。Filter 1 は最高度の不要なナイキストイメージ除去と急峻なロールオフを備えていますが、4種類の中では一番過渡特性は悪いです。フィルター2, 3, 4は進むに従ってよりゆったりした拒絶反応ですが、過渡特性は良くなっていきます。経験的に、Filter 2 はオーケストラ、Filter 3、Filter 4 はロックに適しているとも言えます。

ソースデータがデュアル AES でサンプリング 176.4 か 192kS/s の場合には更にもう2つのフィルターが用意されています。Filter 5 はガウシアン反応、Filter 6 はプレリンギングがほとんど無い非対称タイプです。

DSD モードは4種類のフィルターがあります。これらは進むに従って 1 ビット DSD に生来的な帯域外ノイズレベルを減少させるフィルターです。Filter 1 が標準的なフィルターです。帯域的に最大（70k Hz）で帯域外ノイズレベルは他のフィルターより大きい設定です。これでシステムがまだ硬い、ざらつくとお感じになれば、Filter 2 か Filter 3 を試してみてください。これらのフィルターは帯域を犠牲にしつつもノイズレベルを減少される方向に設定されています。Filter 4 はトラブルシュートのために設定されたもので、音楽鑑賞用ではありません。初期段階でのカットオフと、帯域外ノイズを最小におさえています。

各サンプルレートにおいて最後のフィルター設定を本機は記憶しています。

メニューが開かれている場合は、FILTER ボタンは←ボタンに変わって機能し、メニューのページを逆に進行します。

(E) INPUT ボタン

INPUT ボタンを押すことによって、デジタル入力を順番に変更します。その順序は AES1、AES2、DUAL AES（Dual AES メニューで設定することによってこの表示はなくなります）、RCA1、RCA2、Toslink、BNC、SDIF-2、1394（作動中のソース機器、例えば dCS STT の表示になります）

メニューが開いているときには、INPUT ボタンは→ボタンに変わって機能し、メニューページを順に進みます。

(F) ディスプレイ

通常の使用では、4つの部分に分かれます。

(G) MUTE ボタン

アナログ出力のミュートです。本機がミュート状態（ミュートボタンが押されているか、もしくはソース機器とロックしていない）の場合、ボタン上部の LED が点灯します。

選別された入力（例えば RCA1）または 1394 ソース名（例えば dCS STT）を表示します。設定を変更するときは、ここに短時間その時の設定が表示されます。

ロックされた状態とデータ様式を示します。例 え ば、No Input、Locking、(Clk OK)、16/44.1、（ビット数とサンプルレート）、24/192 または DSD。CD のトラック間は動作しているビット数は 0 ですので、0/44.1 と表示されます。

シンクロモードと選択されたフィルター番号（この場合 Filter 2）が表示されます。逆相に設定したときにはフェーズアイコンが表示されます。

階段状のアイコンはボリュームレベルかもしくはバランス設定です。この表示状態は -0.0dB です。

(H) MENU ボタン

このボタンを押すことによってメニューが開きます。メニューページを選択しセッティングを変更します。16 ページのメニューセクションをご参照ください。

(I) リモートコントロールレシーバー

リモートコントロールをレシーバーへ向けて操作してください。

(J) ロータリーコントロール

通常ボリューム設定に使用します。メニューによってバランスページが開かれているときは、左右チャンネルバランスを調整します。

またメニューが開かれているときには、ロータリーコントロールでページを進んだり戻ったりします。

リアパネル

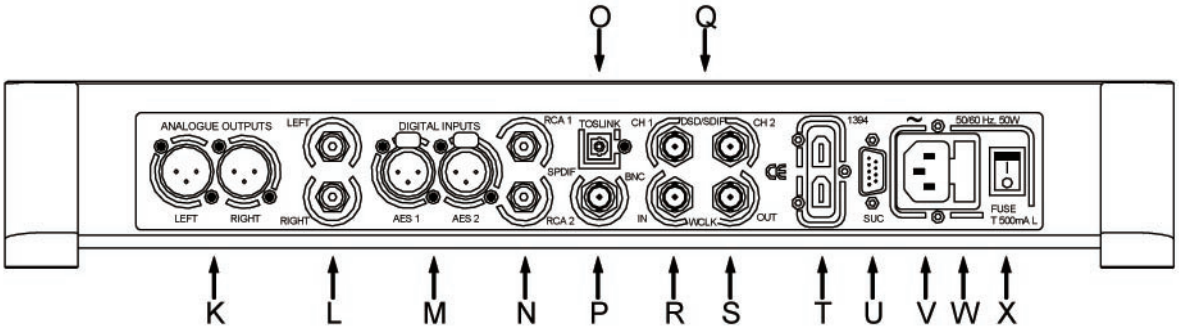


図 5：リアパネル

(K),(L) Analogue Outputs（アナログ出力）

(K) は XLR コネクターによるバランス出力で、プリアンプまたはパワーアンプのバランス入力に接続します。2または3番ホットで1番グラウンドのバランス入力以外にはご使用しないでください。接続される機器が XLR でもアンバランスの場合にはアダプターを介して、本機の RCA 出力から結線します。

(M) AES デジタル入力

AES1、AES2 共全く同じ使用で個別に 96kS/s サンプルレートまで使用できます。Dual AES（デュアル AES）メニューが On または Auto に設定されていれば、ペアとして使用し、88.2、96、176.4、192kS/s サンプルレートを受け付けます。正しくデュアルモードとして作動させるには、ソース機器がデュアル AES データをきっちりとスペック通りに送ることが前提です。デュアル AES データとはシングル AES をコネクター 2 本で受ける、ということではありません。

(N),(O),(P) SPDIF 入力

RCA1、RCA2(N)、BNC(P)、光 SPDIF 入力の Toslink(O) がその入力端子です。Toslink をご使用の前にダストカバーキャップをとります。この入力端子は 96kS/s までのサンプルレートを受け入れます。ただし Toslink は 48kS/s 以上のサンプルレートには対応しませんのでご注意下さい。

(Q) DSD/SDIF デジタルインターフェイス

DSD/SDIF インターフェィスは SDIF-2 PCM データを最大 96kS/s のレートまで、または SDIF-2 DSD データを受け入れます。本機はデータフォーマットを自動的に検出し、正しいモードに設定します。インターフェイスは CH1、CH2(Q) と表示された入力から構成されています。SDIF モードの動作はソース機器からのワードクロックが WCLK In(R) 端子に接続されていることが条件です。

(R),(S) Word Clock 入出力

(R) WCLK IN（入力）はマスタークロックやソース機器から 32、44.1、48、88.2、96kHz の標準的ワードクロックを受け入れます。クロック周波数はデータレートの正確なデータ倍数レートでなければなりません。そうでない場合ではシステムはロックしません。Sync（シンクロ）ボタンを外部クロック使用時に使います。ソースは同じクロックに接続されていなければならない点にご注意ください。でなければ、システムはロックしませんし、クリックノイズが出力から間隔をおいて発生します。

本機をマスターモードで設定した場合、データにロックしたり WCLK IN に関わらず、DAC は内部クロックを使用します。(S) WCLK Out（ワードクロック出力）は 44.1kHz ワードクロックを送り出します。これはシステムがロックするように、ソース機器に結線します。

ワードクロックは同期（シンクロ）させるために使われ、デジタルデータは扱いません。

(T) 1394 インターフェイス

IEEE1394 はスカルラッティおよび dCS トランスポート、最新のソフトウェアによりオペレートされるアップサンプラーからの DSD データのためのものです。1394 は多くのデジタルデータを扱えます。しかし、安定したクロックを送ることは得意ではありません。従って、別のワードクロック接続端子を使用します。2つの 1394 ポートは同じです。データ出力、またはループスルーで使用できます。一つの DAC に二本の 1394 で接続すると機能しませんのでご注意ください。

(U) SUS 端子

RS232 インターフェイス。主に検査のためのオートテストに使用します。

(V) 電源プラグ入力

IEC320 標準コネクター用端子です。

(W) 保護フューズ

(X) パワースイッチ

ソフトウェアーメニュー

メニューを進めるには **Step >** を押し、戻るには、**< Step** を押します。
メニューオプションを設定、変更するには **Select** を押します。

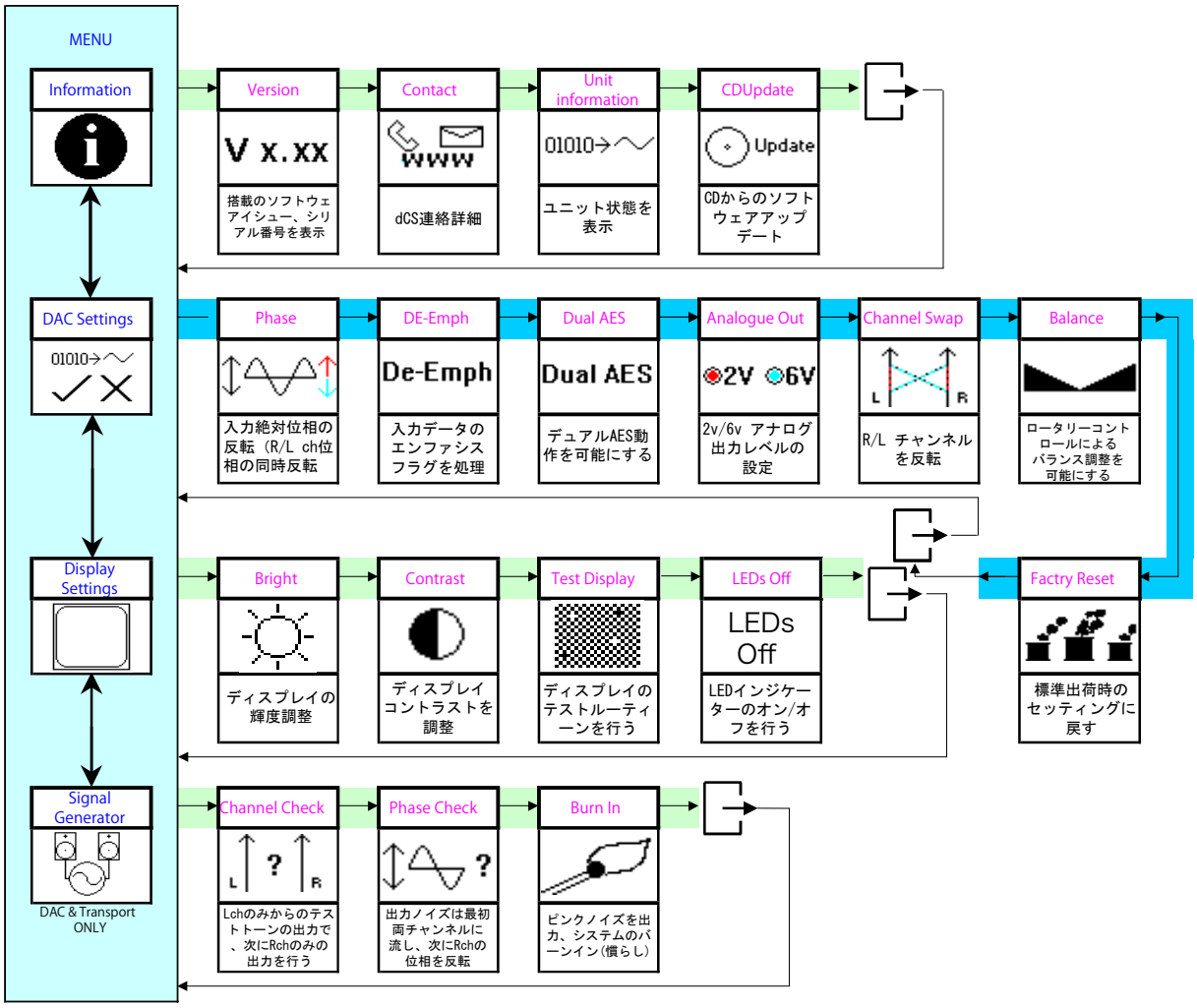


図 6：ファンクションメニューのフローチャート

メニューの使用

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューは 4 つのボタンによって操作します。

- MENU ボタンでメニューを開く、またはセッティングを選択
- →ボタンによってメニューのページめくり
- ←ボタンによってメニューのページ戻り
- POWER ボタンによってメニューを閉じる、または5秒でタイムアウト

リモートコントロールによってメニューにアクセスも出来ます。

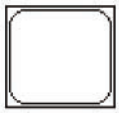
本機には4つのトップメニューがあります。

INFORMATION メニュー

ソフトウェアイシュー番号、シリアル番号、連絡詳細、ソフトウェアアップデート

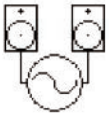
SETTING メニュー

異なるセッティングを行うメニューで、フロントパネルから直接アクセス出来ないセッティングを行えます。



DISPLAY SETTINGS メニュー

ディスプレイの調整



SIGNAL GENERATOR メニュー

テスト、セットアップ確認事項を含んでいます。

→ボタンによって希望のメニューに移動することが出来ます。希望のメニューに移動したら MENU ボタンを押します。表示されたメニューを選択し、更に→ボタンによってページを早送りできます。MENU を押すとそのページにおいてのセッティングを行えます。

戻りのアイコン によって直前のメニューレベルに戻れます。

INFORMATION メニュー

V x.xx

Version（バージョン）ページでソフトウェアバージョン、フルシリアル番号を表示します。サービス、販売店にご連絡の時はこの番号をお知らせください。

Contact（連絡）ページ。dCS ウェブサイト URL、e メール、電話、ファックス番号を表示します。

01010→

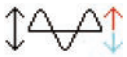
DAC Information（DAC 情報）ページで、ご使用機器の状態を表示します。

- Input selected to ....
- 1394 nodes connected: ....
- Sync to Audio / Clk / Master （クロック状態：シンクロ、マスターなど）
- Unlocked / Locked at .... kS/s （ロック状態：ロックされたサンプル数）
- Input is PCM / DSD （PCM/DSD インプット状態）
- No De-Emphasis / De-Emphasis is ....
- Filter .... 設定されたフィルター）
- Phase Normal / Inverted. （位相状態）
- Internal Temperature .... ℃ （内部温度：摂氏）

→←ボタンによってリストをスクロール、MENU ボタンによって戻ります。

CD Update（CD アップデート）ページはソフトウェアが新しくなったときに使用します。スカルラッティ・トランスポートまたはご使用の標準 CD プレイヤー、トランスポートからソフトウェアを更新できます。CD レッドブック規格外のトランスポートはデジタルデータを変更するので、使用できません。送られてきたアップデート CD の注意事項をよくお読みください。

DAC SETTINGS メニュー



Phase（位相）ページでは、アナログ出力の位相を正相（↑）、逆相（↓）に変換します。

De-Emph

De-Emphasis（エンファシス）ページはプリエンファシスデータをディエンファシスにイコライズします。サンプルレート 32、44.1、48kS/s において有効です。

設定手順

- Auto：本機はデジタルデータからディエンファシスフラグを読み取り、自動的に適切なディエンファシスを応用します。データのディエンファシスフラグが間違っていた場合、マニュアル操作で正しい設定を行う必要があります。
- Off：ディエンファシスはオフになります。
- 50/15：50/15us ディエンファシスカーブを応用し、フラッグデータは無視されます。これは初期 CD に時々使用されます。
- CCITT：CCITT J17 ディエンファシスカーブが使用されます。DAB ラジオに対し使用されます。

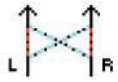
Dual AES

Dual AES ページはデュアル AES ソースから AES 入力の2つを同時に使用して PCM データをハイサンプルレート（88.2、96、176.4、192kS/s）で受けるときに用います。ソース機器の AES 出力は、デュアル AES データを実際に出力しないものもありますのでご注意下さい。設定は以下の通りです。

- Auto：本機はデジタルデータからフォーマットフラグを読み取り、AES1、2 入力をシングルかデュアル AES モードが必要とされるかを自動的に設定します。これが通常の標準設定です。データのフォーマットフラグが間違っていた場合、マニュアル操作で正しい設定を行う必要があります。
- Off：デュアル AES モードは使用できない状態。
- On：INPUT ボタンまたはリモートコントロールによってデュアル AES モードをマニュアル設定します。

2V 6V

出力レベルを 2Vrms、6Vrms に切り替え設定します。オーディオシステムをセットアップしたとき、より快適なリスニングレベルでボリュームコントロールを行います。DAC を直接パワーアンプに接続する場合は、最適音圧レベルを −10dB と −20dB 間に持って行くようにすると良いでしょう。



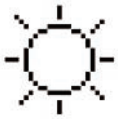
Channel Swap ページは接続が正しいかをチェックするために左右チャンネルを入れ替えます。もし間違って左右を接続していれば、この段階で接続し直します。（↑↑）

Balance ページはロータリーコントロールによってバランスを調整します。各チャンネルは 0dB ~ −6dB の範囲で調整できます。ステップは 0.1dB です。最小レベル以下は消音（− ∞）です。バランス調整が終わったら、メニューを閉じるか、MENU ボタンを押してください。

Factory Reset メニューは工場出荷時の標準セッティングにリセットします。

- Volume：−30dB
- Balance：センター
- Input：AES1
- Sync：Audio Input
- De-Emphasis：Auto
- Filter：1
- Phase：Normal
- Dual AES：Auto
- Output Level：6V
- Channel swap：Normal
- Display：On
- Brightness：最大輝度
- Contrast：60%

DISPLAY SETTINGS メニュー



Brightness（輝度）をお好みの輝度に設定します。

ディスプレイの Contrast（コントラスト）をお好みのレベルに設定します。

Display Test（ディスプレイ標準テスト）を行います。（メインディスプレイとインジケーターを点滅させる）

LEDs Off

LEDs Off （LED ランプ Off/On）LED ランプを消灯させる場合は Off にセットしてください。

SIGNAL GENERATOR メニュー

Channel Check：左右チャンネルの接続が正しいかチェックするために行います。ディスプレイが Left（左）と表示している間は左チャンネルのみ出力され、Right（右）と表示している間は右チャンネルのみ出力されます。

Phase Check：位相が正しく設定されているかチェックするために行います。In Phase（正相）と表示している間は両チャンネルから正相のノイズを発します。MENU ボタンを押すと右チャンネルのノイズが反転し逆相となります。その間ディスプレイは Out of Phase（逆相）と表示されます。最初のノイズは中央のイメージング。二回目は中央イメージングではありません。→または←ボタンを押してテストを終了しメニューに戻ります。

Burn In：システム全体のバーンイン（慣らし）を行うときに使用します。ディスプレイは Burn In Caution! Loud（大レベルでバーンイン中、注意）と表示し、次に混合ピンクノイズを発しますが、徐々に設定レベルに上がっていきます。MENU または→←ボタンを押すとバーンインは停止されます。ボリュームレベルが大きくならないように注意してください。慎重にレベル設定をしておかないとアンプやスピーカーに損傷を与えかねません。*この過程での損傷は保証の対象外となります。音圧レベルには充分にご注意ください。*

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換

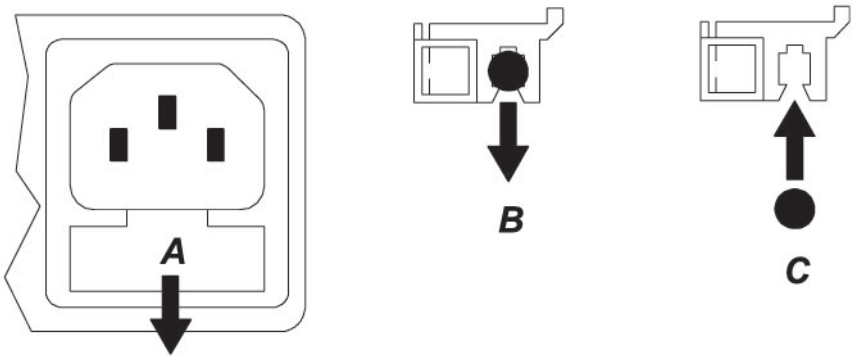


図7：ヒューズの交換

電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A ＴＬヒューズ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブ（A）を引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズ（B）を押し出し、新しいものに交換（C）してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

保証

当社はお買い上げ時より一年間、本機の不良または正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

以下の場合には保証が適用されませんので、ご注意ください。

・いかなる場合でも本機が誤って使用された場合。
・dCS、当社以外の手によって改造や修理が行われた場合。
・マニュアルの使用環境に従っての使用がなされていない場合。
・グランド電源を使用しない場合。
・不適切な梱包によって返送された場合。

問題が発生した場合にはモデル名、フルシリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題点の出来るだけ詳しい内容を販売店、または当社にお知らせください。修理のためご返送いただく場合には、オリジナルの梱包が安全ですので、梱包材はお手元に保管ください。梱包材が無い場合には有償でお貸し出しいたします。

使用環境

・リアパネルに表示してある電圧（100v）の ±10%。
・交流電源 49 ～ 62 サイクル
・使用温度　0℃～ 40℃
・以下に述べる機器近辺に設置しないこと：暖房機、空気ダクト、パワーアンプ、直射日光
・ご心配の点があれば簡単なテストとして、本機は人間が快適な環境であればまず間違いなく動作します。

ソフトウェア・アップデート

dCS の製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートのサービスを行っております。
ソフトウェア更新の際にはご登録いただいたユーザーの方へ郵送にてご案内させていただいておりますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願いいたします。
ソフトウェア・アップデートについてご不明な点がございましたら 、弊社までお問い合せください。

仕様

コンバータータイプ	5ビット、3MS/s オーバーサンプル、リングダック構成
デジタル入力	IEEE1394 2 系統 (DSD 用インターフェイス) AES/EBU(XLR) 2 系統 (Dual AES で 192kS/s まで対応) SPDIF(RCA) 2 系統 SPDIF(BNC) 1 系統 SPDIF(TOS) 1 系統 SDIF-2(BNC) 2 系統
クロック	ワードクロック入力 (BNC)1 系統 ワードクロック出力 (BNC)1 系統
周波数反応 （フィルター1の場合）	Fs = 32kS/s +/0.1/−0.5dB, 10Hz _ 15k Hz Fs = 44.1, 48kS/s +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz Fs = 88.2, 96kS/s +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz Fs = 176.4,192kS/s +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz DSD +/−0.1dB, 10Hz _ 20k Hz
残留ノイズレベル	−110dB 以下 20Hz _ 20k Hz(unweighted)
スプリアス反応	−100dB 20Hz _ 20k Hz
クロストーク	−80dB 以上 20Hz _ 20k Hz
出力レベル	2V rms, または 6V rms（全出力）メニューで変更
バランス出力	XLF(M) 1系統（ピン2＝ホット、ピン3＝コールド） 電気的バランス、フローティング。 出力インピーダンス 3Ω、最大負荷は 600Ω（10kΩ 推奨）
シングルエンド出力	RCA 1系統 出力インピーダンス 52Ω 最大負荷は 600Ω（10kΩ 推奨）
電源電圧	100V 50/60Hz
最大外形寸法	W 460 × H 73 × D 405 mm
重量	11.3kg

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9　日本橋グレイス 1F

TEL :　03-6225-2777（代表）

03-6225-2779（サービス課）

FAX :　03-6225-2778

ホームページ :　http://www.taiyo-international.com

10-01-2008